

ずいひつ ②

Z U I H I T U



図面ではなく記号で考えるとはどういうことか？ —藤井聡太の衝撃—

京都市大学都市工学科教授
長岡 裕

私はそれほど強くないのですが、日曜日のNHKの将棋トーナメントを時々観戦して楽しんでいます。将棋の世界での一番の話題は、藤井聡太さんの登場でしょうか。彼の強さの秘密については、主に対戦した棋士の論評があふれていますが、私が最も注目していることは、普通は駒と盤を頭の中で描いて、頭の中で駒をあっちこっちに動かすことによって数手先を読んでいくところを、なんと藤井さんの場合は5一金、同玉、3三角・・・と記号が頭の中をめぐるということです。確かにコンピューターソフトは、記号によって演算をしているのですが、生身の人間の頭です。このことには強豪棋士の多くも不思議でたまらないそうです。

私もそんなことはあり得ないだろうと思っていました。例えば、浄水場というプラントを頭の中で設計し

てみるときに、その姿かたちを頭の中で描くのではなく、図面の座標が頭の中をビュンビュン飛び回っているということに近いからです。

しかし、だれでも暗算はすると思いますが、例えば $12 + 8 = ?$ という問題があったときに、多くの人は、「12 + 8」という記号が頭の中にあり、一瞬のうちにその記号から、20という記号が生まれてくるはずで、12個の玉と8個の玉を頭の中で動かして計算していくという人は少ないのではないのでしょうか。あるいは、3人で居酒屋に行って、会計が1万円だとして、一人当たりいくらかと考えるときに、千円札を10枚思い浮かべて、それを3つに分配するという人はほとんどいないでしょう。ほぼ瞬間的に年長者六千円、若者二千円×2などと、デジタル的に考えるはずで

そう考えてみると、実は凡人の多くも図面などのアナログではなく、記号で思考していることが多いのかもしれない。そのことによって、いろいろな過程がより効率的に動くように（将棋でいえば、読みの速度が速くなるように）になっているのかもしれない。



水とのご縁

2020ミス日本「水の天使」
中村 真優

仏教の根底を成す思想である「ご縁」という言葉をご存知でしょうか。

私は、仏教系の高校出身で、ここで得た教えが今でも大きく生きています。そして、卒業式の日学院長先生がおっしゃった「今もこれまでも、多くの支えやつながりによってご縁が整い、私たちは生かされている。だからご縁に感謝を忘れずに」というお話をとても大切にしています。

ここ最近特に水との「ご縁」を強く感じています。「水」と聞くと私のこれまでの人生の大切な思い出や情景が思い浮かびます。

千葉県柏市出身で、緑がいっぱいの自然豊かな環境で生まれ育った私は、通学路になっていた田んぼ道とその横を通る名もない小川に囲まれながら通学していました。

冬が明け、暖かくなると友人と小川に足をジャブジャブつけて家へ帰るのが日課でした。今でも悩みごとや悲しいことがあると、この小川を眺めに行きます。小川のせせらぎを聞くとずっと心が落ち着き、悩んでいたことがちっぽけに思えるのです。高校生の時留学へ行くか迷った時も、ミス日本のファイナリストとして初めて自分と向き合い、苦しかった時も、いつもその小川が私を奮い立たせてくれました。水にはそんな誰かを大きく包むような不思議な力があるのです。

こうして考えてみると、これ以外にも水にまつわる多くの思い出があり、「水の天使」に選ばれたのも何かのご縁だろうと感じています。

コロナウイルスの影響で、「水の天使」としての活動も減りましたが、逆に考えると一つひとつのお仕事を丁寧に、大切にできるようになりました。さらに、オンラインでのお仕事を通じて、これまでは出会うことができなかった多くのご縁に恵まれました。

新たなご縁とこれまでの出会いに感謝し、残りの任期を大切に過ごしていきたいです。